



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会
 会長 中村孝也
 仙台市青葉区錦町1-3-9
 （市役所錦町庁舎3F）
 電話 022-224-2581
 FAX 022-302-3406

仙台ユネスコ協会と ESD(持続可能な開発のための教育)

活動委員会委員長 内藤 恵子



昨年の全国大会で、民間ユネスコ運動の2つのビジョン「平和な世界の構築」「持続可能な社会の構築」と、5つの重点目標「平和な世界の実現」「ESDの推進」「誰も置き去りにしない社会づくり」「生き生きした地域社会の構築」「自然災害発生後の教育支援」が採択されました。それを受けた次の10年、20年という将来を見据えての新たな一歩の年である今年度は、活動委員会には具体的な活動に反映することが求められました。

そこで、これまで継続開催してきた「ユネスコカレッジ」をESDの視点で見直し「ユネスコカレッジESD講座」とし、「文化遺産編」に加え、テーマをSDGs(持続可能な開発目標)に求めた「気候変動編」を開催することになりました。奇しくもこの夏、酷暑や台風・豪雨によって、地球的規模の課題を実感させられることになりました。人間の安全保障や防災が世界レベルでの課題となり、国を超えて解決に向かう必要性が高まっていることから、今後のカレッジのテーマにも反映していきたい、それが、東日本大震災を経験した仙台ユネスコ協会だからこその責務なのではないかと考えます。



70数年前、世界で最初に民間ユネスコ運動を立ち上げた仙台ユネスコ協会の創設者たちの思いを、我々は今も活動の基本となる精神と捉え、継続していることを誇りに思っています。これからの70～80年後も持続可能な社会をつくり、次世代にかけがえのない地球を繋いでいくことを、我々世代の責任として活動して参りたいと思います。



▶9月1日、仙台ユネスコ協会初めての企画となるESD講座「国土が水没するって本当？南太平洋の小さな国キリバスの事情から地球温暖化について考える」が開催されました。

▲キリバスの正装を身につけたケンタロ・オノ氏
 (記事：3ページより)

これからの行事と催事

東北ブロック・ユネスコ 活動研究会塩釜大会

■日時：10月13日(土)～14日(日)

青年部主催 留学生交流会

■日時：12月9日(日)

会員向 活動説明会・交歓会

■日時：12月20日(木)17:00～

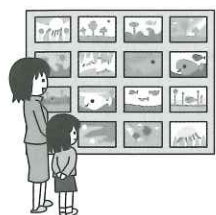
■場所：「伊達の牛タン」本店

第21回 絵で伝えよう！

わたしの町の

たからもの 絵画展

■日時：2019年1月8日(火)～12日(土)



公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年（昭和22年）7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

第75回通常総会・2018年度 第2回理事会

2018/5/30



2018年度の定時総会は、2018年5月30日午前10時から会員総数326名の内174名が出席され、仙台ユネスコ協会(仙台市役所錦町庁舎3階)で行われました。その概要は以下のとおりです。

報告事項として、①2017年度事業実績及び決算報告 ②2017年度監査報告が上程され異議なく承認されました。さらに2018年度の事業計画及び予算の説明がありました。

総会終了後、引き続き2018年度第2回理事会が開催され、①個人情報保護規定の改定 ②情報公開規程の制定③顧問・参与の委嘱について審議されました。また、①委員会の活動 ②ESDプロジェクトについて報告されました。

(小泉知加子 記)

民間ユネスコ運動

2018/7/14 仙台福祉プラザ

仙台ユネスコ協会は7月14日(土)に仙台福祉プラザにおいて「民間ユネスコ運動」記念講演・交流会を会員、青年部、そして一般の方々合わせて86名の参加のもと開催いたしました。はじめに青年部八木直志代表からユネスコ会員綱領唱和とユネスコの歌「手に手をとって」を斉唱。開会にあたり中村孝也会長より参加の御礼挨拶がありました。

そして、来賓として宮城県ユネスコ連絡協議会会長引地瑠美子様より祝辞を頂きました。引き続き、仙台ユネスコ協会の活動の一つであります世界寺子屋運動(書き損じはがき)に貢献されました青葉緑化工業株式会社様、実践倫理宏正会仙台南支部様、森英吾様の団体・個人に感謝状の贈呈を行いました。

その後、「ユネスコの理念と現代社会の課題」と題して公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長鈴木佑司様より講演があり、グローバル化の社会で私たちはどのように世界各国と連携をするか、そして、地域に根差した文化や伝統を若い世代に伝えることの大切さをお話し頂きました。私たちは改めてユネスコの原点に立ち返り「ユネスコの精神とは」を学ぶことができました。その後、塩釜ユネスコ協会の清水努会長より本年10月13日、14日に開催されます東北ブロック・ユネスコ活動研究大会のご案内がありました。また、青年部の活動紹介もあり様々な面で活動に取り組んでいる事を参加者にアピールする良い機会となったと思います。最後に参加者の皆さんと一緒に弁当とお茶での交流が行われました。

(松坂宏造 記)

第74回 日本ユネスコ運動

全国大会 in 函館

広げよう平和・共生の心 ~北の大地から次世代へ~

2018/7/7~8



今年のユネスコ全国大会は、7月7・8日函館市芸術ホールを中心に開催。仙台ユネスコ協会から青年部員を含め21名が参加しました。函館は縄文時代から人々が自然と共生してきた独自の歴史があり、当時の人々の生活を物語る遺物が数多く発掘され、次世代に伝えて行くべき歴史と文化が残されています。

北海道唯一の国宝、北の縄文ビーナス「中空土偶」は40年前じゃが芋畑で農作業中の主婦が偶然見つけました。がっしりとした肩を持つ逆三角形の勇ましい体格、ふくよかな腹部、巧みな幾何学模様、どこかひょうきんな表情に多産や豊穡?信仰や祭祀?墓の副葬品?と想像が広がります。命の再生循環を願って作られたのでしょうか。

自然と共生しながら一万年以上も続いた縄文文化、厳しくも豊かな自然に謙虚に向き合いながら共生と循環の思想のもと、心豊かに暮らした縄文人、命宿る全てのものを尊重する縄文時代の人々に多くを学びました。

今年7月「北海道・北東北の縄文遺跡群」は世界文化遺産の推薦候補に選定されました。(鈴木かつら 記)

盛り上がった交流!!

『2018 仙台地球フェスタ』

2018/9/17 仙台国際センター展示棟

●展示ブースとパネル

今回のユネスコのブースは開場の一番隅だったが前日と当日の朝の準備に尽力いただいたスタッフのおかげで各活動のパンフレットや写真、七夕飾りや折り鶴、加えて着物やゆかたの華やかな色合いもあって他の出展団体よりも一段と華やかで感じられました。人の往来が絶えることない中、世界中の仲間と交流が深められ有意義なフェスタとなりました。

●ゆかた着付け体験...

昨年に続きグループ「着物でスマイル」の皆さんにお願いした着付け体験。

特に今年は「キレイどころのモデル(拍手)」ユネスコ会員有志の皆さんが率先してゆかた、着物を着てデモンストレーションに参加してくれたのが大成功で積極的な協力に感謝です。おかげで外国の方たちの男女問わず(大人から子供)まで、さらには日本の方たちまで途切れることなく、ゆかた・着物がフル回転でした。

このハードな着付けを見事に手際よくなされたグループ「着物でスマイル」の浅野美枝さんと桜井悦子さん、着付け応援の高橋美恵さんには心から感謝いたします。(奥村静剛 記)



青年部だより



活動報告

毎年4月は、春の新学期に合わせ、青年部の活動に力を入れるための先駆けともいえる、新入生歓迎会を行っています。更に大学生のコミュニティを中心とし、高校生や社会人などに幅広くPRに努めています。ユネスコについて知っていただけるよう、様々な情報を共有しながらも、平和のとりでを築くために、私たちは何に目を向けるべきか考え、あらゆる活動を、試行錯誤しながら取り組んでいます。

具体的には、夏の子どもキャンプまでに万全の準備ができるよう、念入りに全体の見通しを立てます。6月から7月は、スタッフによる野外活動・施設訪問、ミーティングの際にも各プログラムの企画立案が着々と進行していきます。そしてキャンプを担うスタッフへの声掛けはもちろんのこと、全国大会や留学生交流会など、国際平和に繋がる活動に着目しています。

私たち青年部は、違った考えを持っているからこそ、視野も広がり、より良いものに繋がるのだと考えます。今後も人との触れ合いや、多くの経験と刺激を受け、尊重し合い、成長し続けていきます。(北條実乃里 記)

第4回 宮城子どもキャンプ

2018/8/10~12

今年は72名の子どもたち、32名のスタッフが参加してくれました。スタッフには4名の留学生も加わり、大活躍してくれました。

テーマは「Hello NEW WORLD」。これは新しい出会い、文化、体験、そして、キャンプ後には新しい何かにチャレンジしてほしいという想いが込められています。

台風の影響により、開催が危ぶまれましたが2日目・3日目は晴れ、外でのプログラムも予定通り行うことができました。ウォークラリーやキャンプファイヤーが外でできたことは、本当によかったです!今年は班でオリジナルのデザインを考えてもらい、Tシャツを作成しました。班の個性が溢れた素晴らしいTシャツでした!

3日間で見られる子ども達の成長には、毎年驚かされます。しかし、1年後という成長はもっとです!だから来年も子どもたちに会えるように、楽しんでもらえるように、私たち青年部も成長し続けていきます!(竹中和奏 記)

ユネスコカレッジESD講座 気候変動編報告

2018/9/1

防災の日の9月1日、仙台ユネスコ協会初めての企画となるESD講座「国土が水没するって本当?南太平洋の小さな国キリバスの事情から地球温暖化について考える」を開催しました。テーマとして取り上げたのが「SDG s目標13気候変動」です。

第1部でのオノ氏の講演「いま伝えたい地球温暖化最前線国・キリバスのこと〜いつまで他人事?」を受け、第2部では「いまできる事を考えよう!未来へつなぐために」と題したパネルディスカッションを行いました。パネリストとして、気象の専門家、小学校教諭、一般市民の方の3名が登壇、正しい情報を得ることの重要性、学校教育が果たすべき役割、自分事として捉え行動をすることの大切さなどが話し合われました。ESDとユネスコ活動の専門家である見上顧問の適切な進行のもと、会場は時折笑い話が起きる和やかさではあったものの、真剣に聴講する参加者の顔が印象的でした。ユネスコらしい学びの場を提供できたと思います。(内藤恵子 記)



■講演講師/コメンテーター

在日本キリバス共和国名誉領事 (一社)日本キリバス協会代表理事 ケンタロ・オノ氏

■パネルディスカッション

○パネリスト
仙台管区気象台気候変動・海洋情報調整官 上原 浩之氏
東松島市立宮野森小学校教諭 成田 智哉氏
宮城教育大学附属小学校保護者 姉崎千寿子氏

○コーディネーター
仙台ユネスコ協会顧問/宮城教育大学前学長 見上 一幸氏

■参加者82名

一般49、仙ユ会員25、登壇者5、関係団体2、マスコミ関係者1

トピックス

学校教育とのつながりも徐々に



仙台ユネスコ協会は「子ども絵画展」、「子どもキャンプ」事業で学校との連携も深まっています。

最近では4月26日(休)に富谷市立東向陽台中学校生徒5名が来訪しました。地域を知る社会科学習の一環です。仙台ユネスコ協会の役割、

活動などを学ぶ目的で90分間熱心に学びました。

8月21日(火)、仙台市立長命ヶ丘小学校の鶴田先生が来訪しました。6年生の授業で国際機関について仙台市で関係する身近な教材として、私共の協会がどのような活動をしているかを調査する目的でした。その他、仙台第一高等学校前期選抜学校独自検査(平成30年度)において、社会科分野の問題(作文)にUNESCO憲章前文、仙台ユネスコ協会年表と、仙台ユネスコ協力会の設立趣意書を載せて、当時なぜこのように市民が考えたと思うか等を問う出題(「国際連合とユネスコ」)がありました。

(千田 稔 記)

中国ユネスコ委員会幹部来訪



8月6日、中華人民共和国のユネスコ幹部の史根東博士他が「仙台ユネスコ協会の状況調査」に来られました。

主な調査事項は、1.運営規模(会員数・活動資金等) 2.活動実績 3.経済界との連携などで2時間近く熱心に質問されていました。

また、青年部の人達とも意見交換を行い「中国の青年達との交流」を強く希望されました。

(中村孝也 記)

書き損じハガキの協力

世界寺子屋運動の一環として活動で、ハガキ860枚、テレフォンカード41枚、古切手33枚、現金7,500円が集まり、5月末ユネスコ連盟にお届けしました。多大な協力者の1名と2団体に感謝状を贈呈いたしました。

豪雨・地震見舞い

7月「西日本豪雨」の被災地の愛媛・広島・岡山三県のユネスコ協会へ5万円と、9月「北海道胆振東部地震」の北海道ユネスコ協会へ3万円を、日ユ連盟を通してお見舞い致しました。「民間ユネスコ運動の日」(7/14)の募金は「西日本豪雨」に含まれています。

宮城県ユネスコ連絡協議会開催

7月19日、県ユ連の総会が事務局白石ユネスコ協会で開催されました。東北ブロック大会(塩釜)を始め、各ユ協の活動や連盟の会費値上げなど活発な意見交換が行われました。事務局は輪番制で来年は仙台が当番となります。

鈴木恵奈夫氏を悼む



東日本大震災子どもキャンプで挨拶(2012年)

顧問の鈴木恵奈夫様が5月27日に94歳でご逝去なさいました。6月26日江陽ランドホテルでの「お別れ会」には協会からも多数参列いたしました。仙台ユネスコ協会の副会長として約30年間、2012年には会長として協会の改革と活性化に貢献なされました。「東日本大震災支援子どもキャンプ」や青年部育成は特筆すべき事柄でした。

「えなおさん」と呼ばれ、いつもにこやかな笑顔で応接し、役員会や各種行事に元気に参加なさる姿に私達は親愛と尊敬の念を覚えておりました。94歳という高齢にもかかわらず、昨夏の全国大会、年末までは「70周年記念誌」編纂委員として完成に尽力なされ、仙台ユネスコ協会の創立70周年事業を全て見届けての生涯と言えます。皆様と共に、鈴木恵奈夫様のユネスコへの多大な貢献に感謝し、併せて哀悼の意を表したいと思います。(加藤幸子 記)

“11枚の書きそんじハガキでひとりがひと月学校に” ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。



書きそんじた郵便ハガキをご寄付ください。送れなかった62円ハガキは1枚につき57円の募金に替えることができ、11枚あつまれば、カンボジアではひとりがひと月学校に通えます。ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。

会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています!

団体会員(一口)年会費	20,000円
個人会員(一口)年会費	5,000円
青年部会員(一口)年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	104
個人会員	186
青年部会員	23
合計	313

(2018.9.30現在)

【編集委員】

千葉 雅保	小泉知加子
神坂 旭	岩山 浩一
佐浦 公美	佐藤 皇季
戸室 輝信	長本 昭義
松良 基広	

【編集後記】

仙台ユネスコ会報458号をお届けします。5月から9月までの活動報告をまとめました。年1回の民間ユネスコ運動記念講演・交流会、また今年も仙台地球フェスタに展示ブースを出展しました。青年部からは子供キャンプ、またカレッジESD講座を行ってきました。行事一つ一つに、多くの会員の方たちが朝早くからの準備も積極的に尚且つ和やかに活動しており、本当に仙台ユネスコの会はすばらしいなあと思います。今後とも、創意工夫して編集していきますので協力のほどお願いいたします。(仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子)